



幼児食の大切さを学ぶ わいわい子育てフリースペース



講師が考案したレシピを試食する親子

J Aは毎月1回、農協野田神社「洗心館」(花巻市南新田)で子育て支援事業「わいわい子育てフリースペース」を開いています。

9月25日は完全予約制の幼児食教室を開き、親子5組11人が参加しました。講師は奥州市の「Cafe Unma」の及川麻梨絵さんが務め、調理のデモンストレーションを行いながら参加者に分かりやすく説明。実際に説明したレシピの「れんこん汁」や「さば缶野菜炒め」、「りんごの天ぷら」など4品を試食として提供し、子どもたちは「おいしい」と話しながらうれしそうに試食しました。参加した鎌田めぐみさん(41)は「簡単にできて、体に安心なレシピを教わり参考になった。レポートリーの幅が広がった」と話しました。

来年2月19日には、今年度2回目の幼児食教室を開く予定です。



児童がハロウィーンに向けてカボチャで工作 ちゃぐりんスクール



一生懸命カボチャで工作をする児童

J Aは10月12日、J A総合営農指導拠点センター(花巻市野田)で今年度4回目の食農教育事業「ちゃぐりんスクール」を開きました。

雨天のため、児童が5月に植えたサツマイモや米を事前にJ A職員や(農)遊新の高橋新悦代表理事が収穫している作業風景をビデオで流し、児童にどのように収穫されているのかを伝えました。児童は前回のスクールで収穫したおもちやカボチャなどでハロウィーンに向けてジャック・オー・ランタンを制作。思い思いに画用紙やハサミ、ペンなどを用いて工作しました。

J A職員は米などに関するクイズも出題し、児童は理解を深めました。

地域、農業の活性化へ 遠野緑峰高校農業機械贈呈式



菊池校長に目録を手渡す高橋組合長(右)

J A共済連岩手とJ Aいわて花巻は10月16日、遠野市の県立遠野緑峰高校にホイールローダーの農業機械一式を寄贈しました。

同校の校長室で贈呈式を開き、高橋勉組合長が菊池勇校長に目録を手渡しました。高橋組合長は「農業の活性化や新しい農業のために頑張ってもらいたい」と話しました。菊池校長は「長く有効に活用して農業教育の充実に努める」とあいさつ。同校農業クラブの萩野白蘭会長(16)は「地域農業に貢献できるように学習に励む」と話しました。

寄贈した農業機械は、J A共済における「地域・農業活性化積立金」を活用して購入しました。

稲作について理解深める 上郷小学校5年生が稲刈り体験



はせ掛けを教わりながら体験する児童

上郷支店は10月9日、遠野市立上郷小学校5年生11人やJ A職員、地域の農家、児童の祖父母との稲刈り体験を行いました。

5月に菊池正則さんの田んぼ8aに、児童が手作業で植えた「ヒメノモチ」の稲刈りとはせ掛けを体験。菊池愛美さん(10)は「稲を刈るのは初めてで最初は全く刈れなかったが最後にはたくさん刈れてうれしかった」と笑顔を見せ、菊池正則さんは「子どもたちに田植え、稲刈りを通して農業に関心を持ってほしい」と話しました。

収穫した米は、11月下旬に夢産直かみこうで販売体験を行うほか、12月に同校の収穫祭で振る舞う予定です。

香り華やか遠野産ホップ生ビールを堪能 初飲み会を開催



談笑する遠野ホップ農協の佐々木悦男組合長(左)

遠野市とキリンビール(株)との協働プロジェクト「TKプロジェクト」は10月28日、同市で遠野産「2019一番搾り」とれたてホップ生ビールin遠野」初飲み会を開きました。

ホップは「ビールの魂」とも呼ばれ、ビールに香りや苦みを与えます。通常のビール造りではホップを収穫後、品質を保つため乾燥させて使用しますが、当商品は水分が含まれている状態のとれたてホップを生そのまま凍結し、細かく砕いて使用する特許技術を用いているのが特徴です。

同日は、生産者や関係者など約400人が参加し、搾りたてのビールの喉越しを堪能しました。

農を通し世代交流 大迫保育園がサツマイモ収穫体験



大きいサツマイモに奮闘する園児

花巻市大迫町亀ヶ森の中山間直事業鶴尾集落は10月7日、大迫保育園の園児を招き、サツマイモの収穫を行いました。

この活動は、春に住民がベニアズマの苗を植え、秋に園児と収穫し交流することで、地域の活性化を目指すとともに、集落を守り農地を未来へ残すために10年以上前から行っています。同日は、年長園児13人が畑に入り、自分の頭の大きさほどのサツマイモを収穫しました。収穫後は、出来たての焼き芋を味わい、「とっても甘い」「おいしい」とほ場は園児たちの喜びの声と、それを見守る同集落の構成員たちの笑顔が溢れました。

同集落の菊月眞一代表は「園児との世代交流は元気をもらえ、若返りになって良い。今後も継続していきたい」と話しました。